

理工学部 建築都市・環境系学科

海洋空間のシステムデザインEP

キーワード

「船舶」「航空機」「人工衛星」「海洋構造物」「海洋エネルギー」「超音速機」「飛空艇」「飛行ロボット」

こんなキーワードにピンと来た人

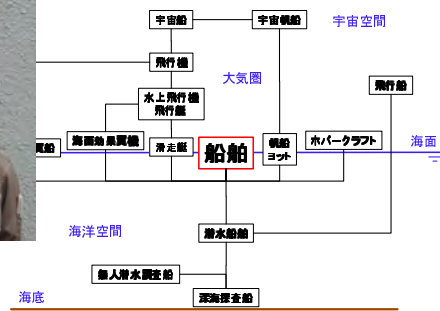
海洋空間のシステムデザインEPでは

「環境と調和しつつ世界中を駆けめぐる**未来型の船舶や航空機**」、世界中に潜在する海洋エネルギーや海底資源の利用を推進するための**斬新な海洋構造物**の設計エンジニアになりたい人、**「海洋から大気圏さらに宇宙を活躍の場とする船舶、航空機、人工衛星の運用」**の最適化を通して、**人や物資の流れを作り、世界を一つにすることを**目指したい人」を求めています。

模擬講義(1)8月7日(10:40～, 14:40～) A208 室

「船の話：深海から宇宙」 講師：鈴木和夫 教授(専門：流体力学)

地球の大きさから考えますと、海も大気圏もその表層にへばりついた薄皮にすぎませんが、人にとっては広大な空間です。本日の模擬講義では、大気圏外近傍の宇宙空間も含めて、船という切り口で主に輸送システムの話をしてみたいと考えています。これらの物体に働く、圧力、浮力、抵抗を考えることによって、その違いが分かってくると思います。



模擬講義(2)8月7日, 8日(12:40～) A208 室

「飛行ロボット入門」 講師：樋口丈浩 准教授(専門：航空宇宙工学)



近年話題のドローン、特にマルチローター型ドローンの出現により飛行型ロボットが注目を浴びています。本講義ではこのドローンを構成する工学的な技術について高校の数学・物理+αで紹介します。なぜここ数年で爆発的な成長を遂げたのか、また、この先に待っている問題などについても紹介します。

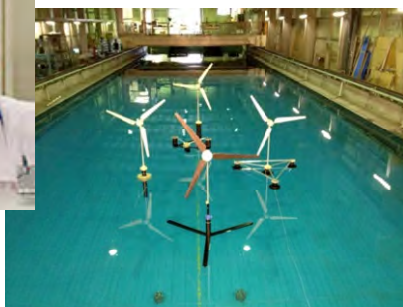
模擬講義(3)8月8日(10:40～, 14:40～) A208 室

「海洋エネルギーの入門(“ある”から“とる”へ)」

「日本は狭いか・・・」とよく耳にします。が、それはあくまで陸の話。地球の表面の7割は海。日本は海(排他的経済水域)の広さで世界の6位、アジアではNo1です。狭いなんて言い訳してる場合じゃない。「日本は資源に乏しいから・・・」これ良く耳にします。が、それもやっぱり、陸と浅い海の話。海の潜在力を引き出すことは、今世紀の世界の課題です。

海の潜在力をどうやって引き出すか、日本の海で通用する技術は、世界の海に通用します。

講師：村井基彦 准教授(専門：海洋工学)



海洋空間のシステムデザイン EP の紹介 (A208)

- EP 説明会: ①10:00～ ②12:00～ ③14:00～
 - EPの教育プログラム入試情報、就職先などについて紹介します。
- 学生による生活紹介: ①10:25～ ②12:25～ ③14:25～
 - 現役の学生が普段の生活などについて紹介します。
- 個別相談: 11:30～、13:30～、15:30～
 - AO 入試や進路、その他大学生活のことなど、なんでも相談してください。教員以外にも現役学生も対応いたします。

研究室スタンプラリー (両日共 11:30～15:40)

「海洋空間のシステムデザイン EP における海洋船舶と航空宇宙の研究や所有施設」を研究室所属の学生が紹介します。

スタンプラリー形式で研究室見学が行えます。

詳しくは A208 または船舶海洋工学棟入口にてスタンプラリー用の台紙をお受け取りください。

- 研究室見学……コンピュータを使った設計と解析などの研究紹介、船体構造の解析、超音速旅客機の空気力、人工衛星の姿勢制御など。
- 大型水槽見学……100m 水槽に実海域波浪を再現。大学の水槽や実験設備を見てみてください。高校のプールとは違います！

大型水槽
大学では世界最大の大きさです！

メインストリートを進み、ローソンの右前方です。

環境情報棟
研究室見学



船舶海洋
工学棟
研究室見学

A208 室
EP 説明会
模擬講義等

その他の情報・質問は

海洋空間のシステムデザイン EP ホームページ <http://www.shp.ynu.ac.jp/>
質問等は kaiyo-ep-qanda@ynu.ac.jp にてお問い合わせください。